

マナーキッズ®プロジェクトについて

-九州情報大学におけるマナーキッズ®テニス教室開催報告-

講師 ^{あきよし こうじ} 秋吉 浩志 (マーケティング論)

1. はじめに

2009年11月1日、九州情報大学学園祭イベントにおいて、本学学友会主催、NPO法人マナーキッズ®プロジェクト福岡支部協力のもと(注1)、(財)日本テニス協会、九州テニス協会、福岡県テニス協会、地元テニス愛好家、本学テニス同好会からなどの多くのスタッフ参加の協力で、本学体育館にて、マナーキッズ®テニス教室が開催された。本学での開催は2回目となる。

本学で行われたマナーキッズ®テニス教室は、NPO法人マナーキッズ®プロジェクトのもと硬式テニス教室を中心として、平成17年から活動をはじめ、NPO法人資格を得てからは約4年の活動となっている。

マナーキッズ®プロジェクトは、各種スポーツを通じて、スポーツの普及のみならず、マナーや礼儀作法などを学ぶイベントである。

本稿では、このマナーキッズ®テニス教室の本学における開催報告ならびに、開催時のアンケート等を通じてのマナーキッズ®テニス教室の重要性、大学での開催の効果や意義、今後の課題などについて若干考察してみたい。

2. マナーキッズ®プロジェクトとは

マナーキッズ®プロジェクトの設立趣旨であるが、「現代の子供や若者の状況の変化、とくに身近のものとして、挨拶や礼儀など人間としての基本的なマナーやルールの意識の欠如、私的空間と公的空間のけじめ感覚を持ち合わせない、傷つくのが怖いから他人と深く交わろうとしない、学びを含めて何事にも意欲がわからない、体力や運動能力の面でもひ弱になったなど、現代の子供の精神や体力に関するさまざまな問題が指摘されており、さらにそれらの問題が急激に増えつつあること」(注2)は周知の事実であろう。

特定非営利活動法人として活動している「マナー

キッズ®プロジェクト」は、前記のような子ども・若者における状況の是正に向けて、その一助になることを設立の趣旨に据えている。

即ち、子どもたちが、「地域社会あるいは国際社会の中で市民として生きていく力を、個人レベル(主体性・自律性)、対人関係レベル(自己と他者との関係)、文化・社会レベル(個人と社会との関係)のいずれの面においてもきちんとして身につけさせていくことを目指しており、そして、体力・運動能力及び知的能力の向上を図り、『体』『徳』『知』のバランスの取れた人材育成に寄与していくこと」(注3)を目的としている。

具体的活動としては、スポーツ・文化など子どもたち向けの各種活動を通じて、日本の伝統的な礼法を体験させることで、挨拶、礼儀作法などのマナーを習得させることであり、そのために、現在、小笠原流礼法・鈴木万亀子総師範との提携・協力関係を整え、それと同時に、スポーツなどを通じて、ルールを順守し、物を大切にすることを体得できるようにしているのである。

この目的の達成のために、全国の幼稚園・小学校・総合型地域スポーツクラブ・スポーツ少年団などで、マナーキッズ®教室を開催するほか、地域や保護者などを対象とした各種研修・教育・普及事業などを全面的、かつ継続的に展開していくことを目指している。

3. マナーキッズ®テニス教室について

現在、マナーキッズ®プロジェクトの基盤となるスポーツ競技は硬式テニスであり、このNPO法人の設立時の基盤スポーツ競技でもある。

現在も、その事業のほとんどが、硬式テニスの普及活動と連動してマナーキッズ®プロジェクトの活動が全国展開されている。

ここでは、実際のマナーキッズ®テニス教室の内容の流れについて簡単に説明する。

〈研究資料〉

本学で行われたマナーキッズテニス教室の一般公募型は以下の内容を主として行われている。

(1) マナーキッズテニス教室（一般公募型）の内容事例

①受付：

- ・児童一人で受付、「おはようございます」「名前」「よろしくお祈いします」の挨拶

②開講式：

- ・姿勢を正して、児童自ら自己紹介
- ・小笠原流礼法常任理事 鈴木万亀子総師範による正しいお辞儀、挨拶の仕方指導（マナーとは約束、ルールを守ること、挨拶は「心と心を結びボン」、人の嫌がることをしない、用具を大切にすること）（「宜しくお願いします」「ありがとうございました」の仕方指導）

③実技指導：

- ・コート上で「宜しくお願いします」「ありがとうございました」を数十回反復練習
- ・90%以上は「ナイスショット」「うまい」「上手」と褒める。ふざけた態度、約束、ルールを守らない場合は叱るというメリハリのついた指導
- ・ラリーは何本続けられるかという練習では、始めは達成可能な目標をコート毎に提示し、達成するとコーチと握手し、報告させる。後は、個人毎に目標自己申告。

- ・試合が終れば、勝っても負けても笑顔で握手

④閉講式：

- ・修了証書の授与。大きな声で返事、授与者の目を見て、「ありがとうございます」
- ・感想文の提出。「スポーツ三つの宝」小泉信三氏、「本気な人間になれ」福田雅之助氏、「マナーキッズ大使ウインブルドン派遣と佐藤次郎」

⑤保護者への講演会：

- ・鈴木万亀子総師範「家庭内でのしつけ」(注4)

なお、本学で行われたマナーキッズテニス教室のタイムテーブルは図表1のとおりである。このほか、個々の小学校や幼稚園の事情を考慮して計画実施する訪問指導型も行われ、とくに体育や道徳の授業に時間を利用した計画で、すでに全国の小学校・幼稚園で数多く実施されており、公募型よりも開催数が多くなっている。

また、最近のスポーツ競技や運動などにおいて、水分補給の重要性も指摘されており、その重要性も教室内で実施、告知されている。

以上がマナーキッズテニス教室の実施内容事例の

図表1：2009年マナーキッズテニス教室九州情報大学開催分の概要
(タイムテーブル)

	マナーキッズテニス教室内容	時間 (分)
1	整列・開講式	2
2	主催者挨拶、注意事項等	2
3	参加者全体写真撮影(感想文、アンケート提出終了後渡し)	2
4	受講者自己紹介	4
5	指導者紹介	2
6	「お辞儀の仕方・挨拶の仕方」の実技指導	5
7	注意事項	3
8	水分補給	1
9	準備運動	2
10	中央コートでの指導(何をするか、ラケットの握り方・ボレー・ストローク、スマッシュ、サーブ)	8
11	指定コートでの練習(地球一周、ラケットつき等)	5
12	指定コートでの練習(ボレー)	10
13	休憩・水分補給	1
14	中央コートでの指導(ラリーが何本続くかの練習及び申告(個人ごとに目標設定 段々高くする))	5
15	指定コートでの練習(ラリーが何本続くか、申告制)	18
16	休憩・水分補給	1
17	中央コートでの指導(スマッシュ、サーブ)	3
18	指定コートでの練習(スマッシュ)	15
19	指定コートでの練習(サーブ)	10
20	雑巾掛け	3
21	整理体操	1
22	閉講式・全国大会説明・修了証書授与・感想文・アンケート提出依頼・お礼の挨拶	9

※出典：マナーキッズテニス教室福岡支部資料より

概略である。

4. 本学におけるマナーキッズテニス教室の開催について

さて、このマナーキッズテニス教室は、九州情報大学においては、本学学園祭開催時の2008年11月1日、2009年11月1日と過去2年間で2日間行われた。

本学開催は、2008、2009年において、福岡県内の唯一の公募型の開催会場であり、また、大学学園祭における公募型マナーキッズテニス教室開催は2008年全国では初めての試みとなり、さらに継続して2009年も全国の大学学園祭で行われているのは本学のみであった。以下、この2年間行われたマナ

図表2:九州情報大学におけるマナーキッズテニス教室開催時の参加人数

場所	学校名	実施日	児童	児童参加人数	指導者参加人数	保護者等参加人数
太宰府市	九州情報大学 (公募型)	H20.11.1(土) 2008年	幼稚園/小学校	83	23	90(概算)
太宰府市	九州情報大学 (公募型)	H21.11.1(日) 2009年	幼稚園/小学校	54	19	70(概算)
参加者合計				137	42	160(概算)

※注：2008年は1日に計2回開催、2009年は1回のみ開催。

マナーキッズテニス教室の内容について簡潔に紹介したい。

(1) 2008年11月1日(土)の開催について

2008年11月1日、本学学園祭の一環として、第1回マナーキッズテニス教室は、本学体育館内にて行われた。進行はNPOから田中日出男ディレクター、小笠原流礼法総師範鈴木万亀子氏の礼儀指導、テニス指導は、ブライトテニスセンター中野佑美プロ、地元テニス愛好家含めた23名と充実した指導体制で行われた。

先述のタイムテーブルに沿って、マナーと礼儀指導、そしてテニス指導が行われ、子どもたちがテニスレッスンに参加している間、別教室にて保護者向け小笠原流礼法総師範鈴木万亀子氏の「家庭でのしつけ」特別講義が行われた。

鈴木氏の「家庭でのしつけ」は、子どもたち向けばかりでなく保護者向けに行われているため、実際子どもたちがマナーとテニスを学ぶばかりでなく、保護者もマナーや挨拶、しつけに関して再認識や新たに学ぶことも多く、非常に好評のイベントであった。

また、この日は、午前と午後の2回行われ、のべ83名の児童参加、保護者、見学者を含めるとのべ200名以上の参加となった。

(2) 2009年11月1日(日)の開催について

2009年11月1日、前年と同様に本学学園祭の一環として、本学体育館内にて行われた。このときは進行と礼儀指導はNPOからの田中日出男ディレクター、テニス指導は、橋本総業所属プロ杉山記一プロ、地元テニス愛好家含めた19名と昨年同様充実した指導体制で行われた。

今回、前回行われた鈴木氏の特別講義は諸事情に

より開催できなかったが、ディレクターの田中氏による挨拶としつけの講義が、本学体育館のテニス教室会場で行われた。

テニス教室では、橋本総業所属の杉山記一プロのデモンストレーションが行われ、プロのスピードや技術を目の前で見られるのは児童たちの表情が豊かになり特にサーブの速さに歓声が上がり、児童達には新鮮な影響のあるものであったように思える。

また、今回は、児童の参加のみでなく、保護者の参加も積極的に働きかけた。その結果親子のコミュニケーションを積極的にとろうとしている家族もあり、一緒になにかをするというのはテニスというスポーツは効果が高いように思われる。

なお、当日は悪天候にもかかわらず、参加者は児童54名、保護者を含めて約130名となり盛況であった。

図表2では「九州情報大学におけるマナーキッズテニス教室開催時の参加人数」、図表3ではその参加者の内訳を示している。

5. 本学におけるマナーキッズテニス教室アンケート結果について

2008年、2009年とも参加者に向けた今後の課題やマナーキッズテニス教室への評価や今後の開催に向けた参考資料としてアンケートもテニス教室終了後行った。

本報告において、とくに顕著だったアンケート結果を紹介する。

まず、本イベントの参加動機については図表4、本イベントを知ったきっかけについては、図表5に示している。各グラフの上段は2008年、下段は2009年の集計である。本イベントは、2008年、2009年とも、本学のある太宰府市内の幼稚園と小学校関係などを中心に約4000枚のチラシを配布した。そのチラ

図表 3 : 2008、2009 年九州情報大学学園祭マナーキッズテニス教室参加児童の内訳

2008 年参加児童合計 83 名				2009 年参加児童合計 54 名			
男性児童 39 名		女性児童 44 名		男性児童 21 名		女性児童 33 名	
太宰府市内 24 名	太宰府市外 15 名	太宰府市内 33 名	太宰府市外 11 名	太宰府市内 17 名	太宰府市外 4 名	太宰府市内 28 名	太宰府市外 5 名

シによる参加申し込みがもっとも多かったが、次の太宰府市の広報、また、太宰府市内の大学・短大などの公開講座の企画、学園祭の案内などを紹介する太宰府市独自の「太宰府キャンパスネットワーク」という季刊広報からであった。とくに市報とこの太宰府キャンパスネットワークの市民への告知能力が高く、チラシの次には市報と太宰府キャンパスネットワークを見て参加した参加者が多いという結果となった。チラシも含めて、より身近に接する機会の多い広報やチラシなどの効果が高かったように思われる。

きっかけとしては、子供の意思で参加するのも当然のことに思われるが、テニスを学ばせていたり、学ばせたいという親の意向が強く出ているように思われる。さらに詳細に検討しなくては行けないが、キッズのスポーツイベントの参加に関しては、きっかけの提供の必要性和親の意向が強く出ているように思われる。

また、アンケートには保護者の感想、ならびにテニス教室終了後の子どもの様子などを記入してもらった。

とくに目立った感想を図表 6 に示している。本学

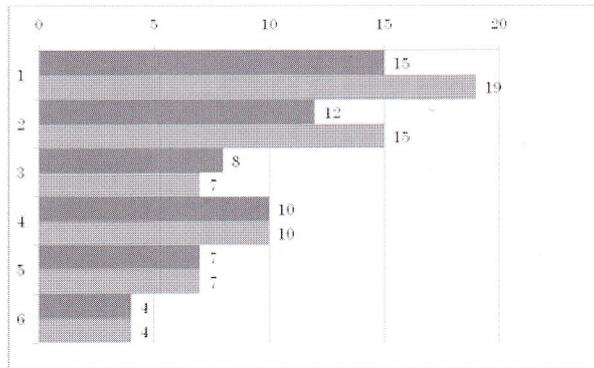
の開催にあたっては、もっとも多かった感想と意見からまとめると、イベントの開催を増やして欲しいという意見と、子供の参加を主に考えて参加した保護者が、こどもよりも学ぶものが多かったという意見である。このイベントでは、マナーや礼儀などを子供を通じて親も再認識するきっかけとなるイベントになっている。

今後の参加意向についてもアンケートで集計したが、2008 年、2009 年の開催において全ての参加者が「是非参加したい」、「都合があれば参加したい」と回答しており、「参加したくない」の回答は皆無であった。(図表 7)

アンケート調査による今後の課題としては、日に関、開催時間等の希望を取り入れながら、また、開催時間の長さも満足できるものかどうか検討しなくてはならないと思われる。

7. おわりに

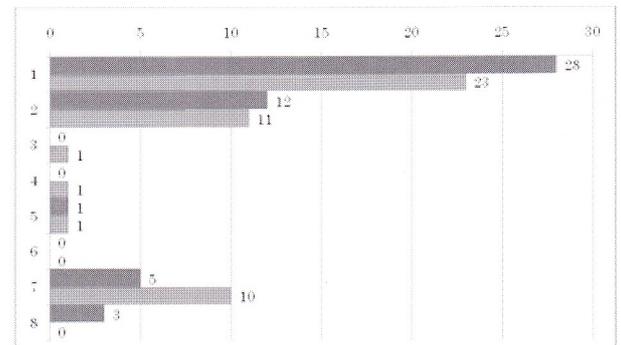
最後に、本学イベントにおける若干の問題点とマナーキッズテニス教室自体の今後の問題点と展望を主に本学の開催時に限定し、提示して、本稿を締め



今回のイベントについてどのようなきっかけで参加しましたか？(複数回答)

- 1 子供から参加してみたいと言われたから
- 2 テニスを学ばせている(学ばせたかった)から
- 3 「マナーキッズ®」という表題に惹かれて
- 4 近くで開催されるイベントだったので
- 5 友人(ご近所さん)と一緒に参加できるから
- 6 その他

注：その他は 2008 年は 0 名であったが、2009 年は昨年参加者への郵送によるものが 3 名である。上段 2008 年、下段 2009 年。



今回のイベントはどのように知りましたか？(複数回答)

- 1 マナーキッズ®テニス教室開催のチラシ
- 2 太宰府市の広報
- 3 太宰府キャンパスネットワーク誌
- 4 ケーブルテレビ
- 5 公共の場の掲示板
- 6 九州情報大学のホームページ
- 7 友人・知人からの紹介
- 8 その他

注：その他は 2008 年は 0 名であったが、2009 年は昨年参加者への郵送によるものが 3 名である。上段 2008 年、下段 2009 年。

図表 6 : テニス教室終了後の児童の変化と意見や要望について

テニス教室終了後の児童の変化 (特に多かった感想を抜粋、多い順)	
◎	元気な声を出せるようになった。(大きな声がだせるようになった)
○	元気に挨拶が出来るようになった。 子供もイキイキして楽しそうだった。 自然に挨拶ができるようになった。 礼の仕方が上手になったように思えます。 テニスに興味を持ったようです。
意見や要望について (特に多かった意見や要望を抜粋、多い順)	
◎	開催を頻繁にやってほしい。(1年に1回でなくせめて半年に1回)
○	いろんな場所で開催してほしい。 礼法の先生の講演は勉強になりました。 この教室は終わってみると親が学ぶものでした。 わかりやすくよかった 幼稚園や小学校で開催してください。 テニスは技でなく礼に始まるということがわかりました。 スポンジで室内で安全にできてよかった。 定期的に行くとマナーも身につくと思います。 ぜひ、テニスに親しむ場所を近所につくってほしい。 子供の周りにいる大人が皆でマナーを教えないといけない。 幼稚園児にはちょっとむずかしいのでは。 テニスのできる子とできない子をわけてほしい。

くくりたい。

まずは、本学開催において、本学の学生にとっても、教育という面からマナーキッズテニス教室へのスタッフ参加は、子供とコミュニケーションをとり、マナーや礼儀を間接的に知り、自分自身への教育という視点からも効果が高まったように思われる。

また、キャリア教育の面から考えてみても、イベント開催へのプロセス、NPO 法人の活動の具体的体験ができるという点においては大きなメリットがある。

次に、本学開催にあたっての問題点は、福岡県、特に本学を中心とした福岡南部における開催については、太宰府市地域、とくに福岡南部地域の「マナーキッズプロジェクト」イベントは本学開催以外皆無に等しいことである。

実際、アンケートの結果にも出ているように、開催を一年に一回のみでなく、一年に周期的に数回開催されることが望まれている。

今回は本学での公募型のケースのみについて簡単に紹介しているが、一方、マナーキッズプロジェクトは、一般的な普及活動と異なり、訪問型として小学校、幼稚園等の授業と一体となって開催されているところにも大きな特徴もある。実際このマナーキ

ッズプロジェクトは小学校・幼稚園などの体育や道徳の授業を行って、実際行うことができています。

今後は、本学イベントに参加した児童ならび保護者に、小学校、幼稚園への訪問型開催実績の告知などをしてこの地区の訪問型の実施や、もちろん公募型イベントの開催数を増やすのも大きな課題であるように思われる。

本イベントの特徴としては、礼儀作法とテニスを学ぶという連携のイベントで非常に特殊な活動でもあるといえるだろう。そのなかで、小笠原流礼法の鈴木氏の「家庭でのしつけ」講演を小学校での保護者向けに講義をしていることは大きな特徴である。

実際、礼儀指導はテニス教室でも行われるのだが、保護者向けにマナー・礼儀・しつけ指導もあり、むしろ子どもというよりも保護者向けという点を注視しているところも大きな特徴であろう。

また、テニス教室においては、2009年本学開催時子供だけでなく、親も一緒にテニス教室に参加できた。そういう点では、新たな試みとして今後大きな特徴を示す可能性もある。

最後に、近年大学の地域社会貢献活動が注目、指摘されているが、本学においても、「大学の社会貢献・地域貢献」が注目されている今、スポーツを通じての家族に対してスポーツを経験させるという点においては、影響力の大きな活動といえるだろう。

今後は、九州情報大学のみならず、多くの大学などで開催されることによって、スポーツを通じた社会貢献・地域貢献に積極的に関わりあうことができるひとつの「地域交流型イベント」の形として提示することができるのではないだろうか。

本学の開催のように地域の子どもたち、保護者に向けてマナーキッズプロジェクトの事業を通じたテニスの普及活動に貢献していることは、「社会貢献・地域貢献」に対して、非常に大きな意義があると思われる。

注記

(1) 本学学園祭にて行われた「マナーキッズテニス教室」は、2008年度は本学学園祭と学友会の主催である。また、以降半分では「®」を省略させていただく。

(2) 財団法人日本テニス協会、NPO 法人マナーキッズ®プロジェクト編「マナーキッズプロジェクト開催マニュアル第4版」2009年、25～30ページ。

(3) 前掲本、25～30ページ。

